

JICA2019 年度課題別研修

「中米統合機構加盟国向け 道の駅による道路沿線地域開発」コースを受け入れました。

令和元年8月20日から9月18日にかけて、中米統合機構加盟国のうち、エルサルバドル、コスタリカ、ニカラグア、ホンジュラス、グアテマラ、ドミニカ共和国、パナマの7か国から、行政官等13名が参加する研修（受託機関 一般社団法人北海道開発技術センター、コースリーダー 松田泰明氏）を受け入れました。

中米地域では都市部と農村部を結ぶ幹線道路の整備とその沿線の地域開発が重要な課題となっており、JICAからの依頼を受け、北海道開発局は、国が注力した北海道総合開発の経験を伝えることは参加国の地域開発の質の向上に資するとの考えにより、中米各国の行政官を対象とした本研修の実施に協力いたしました。

本研修では日本における幹線道路沿線の地域開発において「道の駅」が担う役割を、座学やディスカッション、視察を通じて様々な観点から学習したほか、シーニックバイウェイの取組、公的機関による地域振興のための取組などもプログラムに盛り込まれ、北海道における地域開発の手手法が幅広く紹介されました。

なお、本研修は平成29年度、30年度に引き続き3回目の開催となりました。

【北海道開発局長表敬の様子】



【研修の様子】

北海道開発局では本研修プログラムにおいて、北海道総合開発の体制と日本の行政システムについて講義を行いました。講義後の研修生の感想や後日研修員に実施されたアンケートによると、研修プログラム全体を通して大変有益だったと高い評価を受けました。中でも当局が協力した分野では、中央政府が一つの地方である北海道の開発を重点的に展開してきたことは興味深い、中央政府と地方政府の連携を理解できたといった感想が多く聞かれました。

また、北海道の道の駅の現地視察も行い、道の駅と沿線地域開発に関わる数多くの事例について学びました。



北海道総合開発の体制についての講義



日本の行政システムについての講義

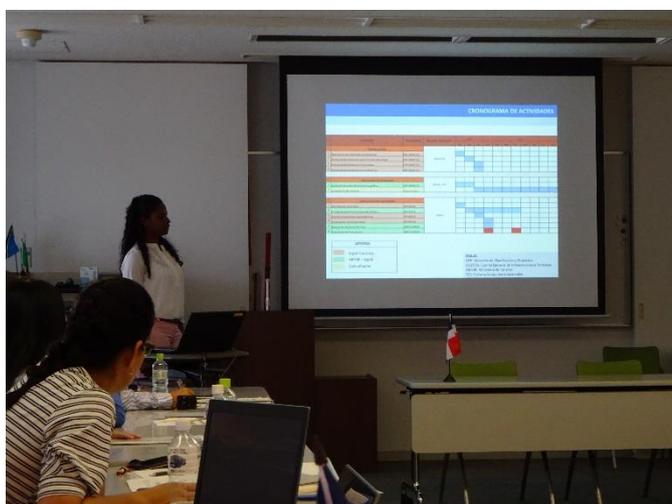


道の駅 くろまつない



道の駅 ぐるっとパノラマ美幌峠

【アクションプラン】



アクションプラン発表会では、北海道で学んだ道の駅及び幹線道路沿線の地域開発を活用し、各国においてどのような事業を実施するのか、研修員が発表しました。

発表後はコースリーダーである松田泰明氏から総評及び各研修員へのアドバイスをいただき、研修の成果を確認しました。

【閉講式】



JICA 北海道所長から修了証書の授与



国際室長挨拶



研修員代表挨拶

3週間という長いようで短かった研修も、9月18日に無事閉講式を迎えました。

閉講式では、JICA北海道センター所長から各研修員に修了証書が授与され、北海道開発局からは 国際室長が、本研修協力機関として挨拶を述べました。研修員代表からは、本研修関係者への感謝の意と、研修内容を今後の業務に活用していくことへの抱負が述べられました。

今後、中米の地域開発に本研修が活かされることが期待されます。

研修にご協力いただいた皆様、ありがとうございました。この場をお借りしてお礼申し上げます。